



萬寶鄙事記

13
1807



石室部本記

貝原著

全

13
1807

13
號 1807
卷

衣版 十一
營作 十一
器財 廿二
硯墨筆紙 廿七
文 字 廿三
刀 指 廿八
收種法 卅
花 卅三
香 卅五
火 卅五

鄒事記

紙細工 五十九
漆物 五十九
太燕 六十三
雜 六十七
台天 七十二
月 八十一
養 八十四
食 九十四
用 九十六
灸 治百六
從一
至二十餘

新金圖書
鄒事記
五月

527

Handwritten text on the right page, including a large vertical title and several columns of smaller characters. The text is partially obscured by bleed-through from the reverse side.

高寶野事記卷之五目錄



Handwritten text in the middle section, including a list of items and their page numbers, such as '衣袋' (clothing bag) and '靴' (boots).

管作

Handwritten text in the bottom section, continuing the list or providing additional details about the items mentioned.

後、法中者、（感） 物取お蔵志、（実） 物取お蔵志、

△ 二月、多し一夜の、（子カ） 此の、（カ） 此の、（カ） 此の、

△ 衣取、（カ） 衣取、（カ） 衣取、（カ） 衣取、

△ 又、（カ） 又、（カ） 又、（カ） 又、

○ 又、（カ） 又、（カ） 又、（カ） 又、

△ 又、（カ） 又、（カ） 又、（カ） 又、

○ 車林廣記

△ 又、（カ） 又、（カ） 又、（カ） 又、

△ 又、（カ） 又、（カ） 又、（カ） 又、

△ 又、（カ） 又、（カ） 又、（カ） 又、

△ 又、（カ） 又、（カ） 又、（カ） 又、

△ 又、（カ） 又、（カ） 又、（カ） 又、

○ 又、（カ） 又、（カ） 又、（カ） 又、

○ 又、（カ） 又、（カ） 又、（カ） 又、

洗きしる如く洗すは本草 又先之油と

以て洗ひ去るは月令廣義

又洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

洗すは本草は洗す所の如く洗すは本草

草のつくま

○布の柄柄浴子度と加柄襦袢の付物を入ぬ

下は柄柄浴子度と加柄襦袢の付物を入ぬ

入敷佛の浴子度と加柄襦袢の付物を入ぬ

柄柄浴子度と加柄襦袢の付物を入ぬ

芝の上の浴子度と加柄襦袢の付物を入ぬ

是と柄柄浴子度と加柄襦袢の付物を入ぬ

紅真ふ生座布と黄ふは是白く水○小指

の黄真ふ生座布と黄ふは是白く水○小指

又ざははとの巻上と白く水○小指

又ざははとの巻上と白く水○小指

又ざははとの巻上と白く水○小指

又ざははとの巻上と白く水○小指

又ざははとの巻上と白く水○小指

又ざははとの巻上と白く水○小指

又ざははとの巻上と白く水○小指

又ざははとの巻上と白く水○小指

又ざははとの巻上と白く水○小指

又ざははとの巻上と白く水○小指

又ざははとの巻上と白く水○小指

又ざははとの巻上と白く水○小指

いさかきと目と **△** 衣服乃深長 撓れハ辛目 既人をもす
みく目とあまのりとあ いさかきと目と 既人をもす
少くもなる進みも言れと早起を似合するもの
△ 又乃鴻大あり故也 いさかきと目と 撓れと目と
衣服乃極長 撓れハ辛目 既人をもす
為るもの也 早く見苦く 難人乃也 いさかきと目と
乃心 いさかきと目と 既人をもす

③ 營他

△ 衣服乃深長 撓れハ辛目 既人をもす いさかきと目と

き細るもの いさかきと目と 実有時乃為る いさかきと目と 甚ど廣き いさかきと目と
但少くもなる進みも言れと早起を似合するもの いさかきと目と
いさかきと目と いさかきと目と 既人をもす いさかきと目と 撓れと目と いさかきと目と
老く いさかきと目と 既人をもす いさかきと目と 撓れと目と いさかきと目と
いさかきと目と いさかきと目と 既人をもす いさかきと目と 撓れと目と いさかきと目と
陰陽向背を撰ぶ いさかきと目と 既人をもす いさかきと目と 撓れと目と いさかきと目と
いさかきと目と いさかきと目と 既人をもす いさかきと目と 撓れと目と いさかきと目と
いさかきと目と いさかきと目と 既人をもす いさかきと目と 撓れと目と いさかきと目と
いさかきと目と いさかきと目と 既人をもす いさかきと目と 撓れと目と いさかきと目と
いさかきと目と いさかきと目と 既人をもす いさかきと目と 撓れと目と いさかきと目と

南向ありて一營從尾南に向ふ事書院版子表
産野乃後路一少延びて他を南向と成て
乃也西に向ふ家の其乃少日即を
近く家他を産りて一深多くして人為事
如也是を見と婦小産二言社をさりて一又
新産産をぬりて一いふ乾りて一近ありて
石外をへて一疫病中産等乃病をぬりて死
を多し有必也情一此て乃六氣の風を果に
燥熱は凡乃温氣を乃乃一少限合飲弟事
一温といふ病室疫病一近く池と海産りて一温
事りて一人乃邪一毒ら成屋も一久く腐る不灰

二

乃池水産不温乃近くても震なり△家乃恒産
産野と産野を晴やうりて一折也一乃板橋
舟外一舟内乃産産一ゆりて一互柱を産産
△家産の産産と大知て并産ひの大伴と云一ぎく
能産ひも并一して一又知て并一業産と能産ひ
るげくるる一わつりて一わつりて一わつりて
とと古一そと若大知乃玉中産ひて産産の家つりて
おこりる一産産乃らも一入る一史事乃時産と乃事
也一△こけらり産産の産根一十年一そと一なる
目一白産と一産一産一産一産一産一産一産一産
く廿年乃内一の産産又新にも同一産産を産

名に数物と入る。一、紙とあるは先父祖乃神を祀る者
乃判物之類方新し。二、百物次は先父祖之母を祀りし百
書物若し物なると次は自ら書し欲目録覺し書
之是日眼指合銀在れ或は金銀物等と別して蔵し
入る。一、蔵乃内は物と入る。二、外は入庫。三、入庫はては
く投進ナゲツキ、更、塵敷くは石やくふさる。又、左、右、月、元、な
き入る。数と入るは自ら書し知と入る。四、外は入庫。五、外は
目録を記し、焚く焼たともある。六、あるは紙、筆、墨、能
儀儀定し、て、墨、下、蔵、い、毎、子、修、復、し、て、火、乃、入、ら、る
ふ、少、し、月、心、と、ま、る。一、大、窓、い、布、を、一、巻、へ、一、燭、煤
焚、候、少、し、又、新、様、乃、多、少、木、屑、腐、り、と、ら、る、あ、ら、う

二六二

焼く。一、一、厨といはるは、紙と。二、一、家、ま、り、り、く、は、紙、と、一
白と、数、数、ふ、と、ま、り、て、焚、候、者、其、氣、乃、元、ま、り、と、紙、と、ふ
さ、き、あ、り、と、ま、り、と、紙、と、一、蓋、と、一、て、時、は、
や、と、ま、り、一、**△**窓と、明、り、よ、ま、り、と、油、帛、と、用、處、一、油
帛、乃、法、**△**桐油桐油 **○**胡麻油胡麻油 在、い、何、も、焚、候、り
一、**○**草麻子草麻子 十支、種、殺、つ、本、 **○**定粉定粉 一、分、右、左、と、り、和、合
し、て、能、招、合、せ、あ、ら、う。 君、家、必、用 **△**紙 **△**石、碑、乃、も、茶
一、研、乃、少、く、彫、い、久、敷、し、て、字、見、へ、り、し、一、字、乃、底、と、く
一、彫、ま、ま、り、一、**△**岩、と、け、け、り、不、り、う、り、の、し、御、致、し、を、け
づ、り、類、子、の、下、さ、る、草、乃、焚、と、多、く、と、岩、乃、よ、し、燧、火、を、
く、焼、べ、一、草、乃、焚、乃、火、守、岩、乃、内、は、徹、ま、り、外、り、彫、あ、

洗ハ能成也 **△**火ノ蒸リ毎々

乃蒸ニシテ其ノ湯ハ清クモ也 **△**漆乃つぎ

おを教 たす時ハ **△**漆子乃破ニ後ハ

つぎあたる也 **目上** **△**漆子乃破ニ後ハ

せんぐいハ其ノせんぐいノ時ハ

ふーふーりのとる也 **目上** **△**漆子乃破ニ後ハ

美子草ニエニと墨を塗り **△**漆子乃破ニ後ハ

相磨志 **△**桐葉翰石ハ

一夜を多く寝る日洗ハ

蓮乃葉ハ其ノ葉ハ

海邊ノ海邊ノ貝ノ

△新瑞乃秋葉

又云其ノ松葉ハ

△桐葉ハ

先ノ松葉ハ

細長クシテ

乃破ニシテ

△漆子乃破ニ後ハ

水ノ漬ニ

時ニ又洗ヒ

乃破ニシテ

又云其ノ

漆膠法 漆子并りあがりきく

膠と和りて之を後漆と少入て煤子合子下し又整

まど少入の事も各見いさかく乾煉之三為也又介子

いさかりつらき處を為也膠と和りて少入り候き

時漆をいし漆の性熱けりく目より久変さるせいら

さぬりてくむをひつらむ能加りんを **△**漆と少

多しすの粘糸を漆と入りてより乃如く云ひり事

乃重なるより初め是時を漆と入る也

△相油漆乃房屋舎舎相油を并交りむと油身と

子相乃木子候是目本枝油也 此大又漆少多り

又實泥倍亦目 細糸とて 右乃油と入る也

是天の晴れ候時乃八時迄三時時移也 然時節

くしをてくしとて糸乃少くたらくとまをく

漆通てく油屋くぬて何れも能時花葉碗とて

第一蓋して蓋てく何れも塗へし一遍塗てく

いさかり二層んし一先一層人塗るやむとて又塗か

らし一層んし目し下し干てくを乃りし陰干しを

了し一層んしはな乃和りし初め又是候月日し繪乃重

と目の上乃重しは極く細糸とてしを塗れとて能

宛高座し人合も合を遊ハリも **△**こくやあり

洋塗相乃如くしをて甘茶とて只塗斗よりくを

くしをてく相の漆ぬ糊とて張るしとて塗也

赤くぬぐき首葉木乃肉一夜毒ハ白くぬぐき

△珠乃布之ぬぐき首葉乃ぬぐき洗ハ後一夜毒

ハ白くぬぐき目上△新瑞乃珠氣後抗ぬぐき用ハ

るまのぬぐきとぬぐき南乃又ぬぐき少ぬぐき年

重海と洗又ぬぐき又ぬぐき汁ハ少ぬぐき少ぬぐき

そぬぐき洗ハ後氣後ハ○後ハ林忌乃ぬぐき○鏡

乃云鏡ハぬぐきぬぐきハば乃ぬぐきぬぐき先ハ林忌

紅深乃ぬぐきぬぐき乃ぬぐき氣燐乃ぬぐきぬぐき

ぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐき

又ぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐき

ぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐき

ぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐき

○骨田 硯墨筆紙

△硯石和りぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐき

硯ハ骨田一硯法ハ骨田ハ骨田ハ骨田ハ骨田ハ骨田

古筆乃物乃ぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐき

前繪乃ぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐき

硯州訓化○骨田一硯と常ハ骨田ハ骨田ハ骨田ハ骨田

硯乃性悪者ぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐきぬぐき

骨田一硯と初硯ハ骨田ハ骨田ハ骨田ハ骨田ハ骨田

びまゝ髪と能成ひるを妙りあへて毛を削り

△筆と並のけしき云々一日より筆を洗ふは費水

△筆通の云々毛とよむ麻と云々たりた是

髪毛の麻と髪と云々是を毛和りし久敷子徳小

秋田の事云々毛の雲々事々云々毛の肥

前々事々云々毛乃髪毛云々云々毛の

毛の毛の腰の毛程の事云々未強毛の毛

毛と云毛和り是之髪子徳の毛毛子及毛の

和りし毛の毛の甚し和り是毛の事云々云々

毛の毛打と云云々毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛の毛

或人服之洗ふし皂角あり又ハす及乃切行と用の
目△**赤視**の身清りたる赤雲とと水ハ
福なるものなり草解乃ほま雲乃如く小散
とありし平空先赤雲と目白くもるべし
赤と能なりし解の物也常乃雲とと和解也
△**草麻子**とく視と扱ハ油法 蒸為物
乃肉より油は皂角と刻之後ハ炙して冷ハ
熟艾とて中ハ又能ハし初ハ次ハ赤と加へく
紅子也とてしき少く箱囊ハ入蒸蒸し細蒸は
とてく打返をハ 相福の美ハ又蒸多ふり色赤
爰也とく油乾りハ又炙ハ乃油と右乃美乃取

あまの代とてさし入ハ 自びる中も
り油とてく油とてく右ハ字乾りハ又曰熟火
艾ハ中と物とてく用ハ 宗範△**枝系**
芭蕉系ハ枝相系ハ貝系ハ紅系ハと皆久字と書ハ
龍機 幸林廣記云 △**為**と洗ハ 熱湯ハ清り
一版のろと書ハとて又冷ハとてく油
右ハ皂角の膏とてく洗ハ △**雲**とてく泡
平の紙とてく入ハとてく大字と書ハとてく
油とてく 箱と書ハとてく △**雲**の古也
誠りハとてくとてく湯ハとてく湯とてく
とてくとてく人 赤雲乃 平と書ハとてく

りての墨の書字小付しと云ふこと

○ 絹布の

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

○ 油字小文字と書く

海蝶
蛸
甲

又乃身船中もどくしく水も波をりど大さるの融
乃肉も慈日の中をえりしとすくしく面も撫をす

○王氏法孫

○畫并

文字忠心く

○春指

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○補

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

先初く何く法帖をく目

○学究

○文字

研 研 研
乃とれを研研二葉を研研くからト多むくも
まらる二葉を研研く共りくるとぬくむ去く日
目と叔祖研を包研く小包く先とまきく極研く
口のまびろを先と先小力とくかト一研次は油と
付く能研けひく油と去く右の包くは破研のまき
打すく扱研く九刀破研のこを付くあ研くさむ者
又五年研く志者り青熟研く暑月研けけり付の
る代研くりく破研のこをさ研く付く扱研く刀の
又矢研く也目の角研く只研くみ研く切研く
扱研く二研葉と去研く小力と目研くま研く能研く

丸丸常の今小切研くは世の底射研くは切研く
七 人切研く口は血研の角研くはさ研く
けき研く怒研くは研く 刀眼研くは小研くはの板研く
と字小本研くはと字研くは方研つむる新本研くは
一青南香と目研くは又研くは本研くは目研く
煎茶子の油研く削研くは去研くはむ研くは物研か相研感研心
石灰研の目研くは鉄研くはさ研くは物研か相研感研心
判刀研とさ研くは知研くはら研くは判研くはて研くは
小磨研くは切研くは少斗磨研へくは多研くは磨研くは
少力研と先研くは切研くは磨研へくは多研くは磨研くは
磨研くは切研くは判研くは釘研くは本研くは目研くは磨研くは

と初より好く合す。其の香は冷香なり。其の香は
只今如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

第九番

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

牡丹花の如く好く合す。其の香は冷香なり。其の香は

事少し一羊云要云○五降乃續松○瑣碎録云蜀葵
代つ子もく松明とを走ら獲るものも三つ同法 硫黄
二十文 掃肥三十一 右末とく 焼酎三十一 和一金松明
竹長三人斗り四り八斗不右乃兼とぬき水申
しも揚る ○水と小匙又焼芥菜人子白掃肥とを
あまりく未とく 松皮三十一 陰平三十一 火と
舟水申子焼又白乃とまとのても昔とく火海
るなり ○三月月紙燭子油と舟羊焼内申子糊を
舟古食つらくも 糠もくも火と煮ひとす切 明く三
日月乃散とるきく 園とすもまきりく 毛と枝へ
厚風乃 軟ひ林乃らち 針三十一 志とりのま

焼くもい 紙焼抄豆 鶏の玉子乃白く 不と紙乃とふ
雲日申不むひ火乃とくもくも物と受勢人
帛焼む久とれい焼る 採人 ○松楮と火と焼ハ
りりりくもくも目の糸と紙楮と焚火とを走ら兼
紙楮目と入とくも目の糸とくも火油の紙楮何とる
書し能と目へ 焼心とくるくもくもくも 光 明り也
毎日油つとくも掃除とてとげと去ぐとくもくもくも
四焼く油屋の子と光 明るくも ○菜乃実雲
油の久食紙とるりくもくも 光り焼るくもくも 新紙
油の光食紙とくもくも 光り焼るくもくも ○火燧子火食紙の灰
乃菜紙焼る一店と用ひ焼るりち紙源く行り度と

ちと月振く水とをり 之副元子く温り合神中
 小引又裏中ふせらぬらりと想ゆらふ中合
 ちり喜し落し紙と付らるる 扱とら ち落せ
 らぬらりと引く屏風せう 張子陰平あはれ
 又裏中とらふ小引中も別不しくあどらとら
 袖付のちのちの上ふあ度げく副元もく甘白屋
 ちとの長し一紙ふとくく日送くあどら
 袖と付くくうらり 少苑あど引らりと枝屋
 度中もく 張子とらふく先裏中とらふ
 子又ふく紙古依ぐとらふ 裏中とらふく
 袖中の表もとらふ小膠と用とらふ 袖と用の水

忠と生れ只苦棟子の末と見し飛粉の月又人あま
 潤もと月ひく 袖と人袖と杉桐柄木花架と
 月ひくく ちん象分古信紙損とらふ
 表分ちの袖と白檠掃と加さ 復ちのま子
 表生合ちと布と何なり 袖中のま子と
 ちのちの百年新らるる 豆の糊菜豆の糊と
 ちのちと終に秋百年とらふ 紋とち
 袖中の表も 南付糊の如らりと好合とらふ 南付和
 りちのちと後とあはれく ちのちと南付ちり
 袖中のちと付とちと洞金とらふ ちのちとあはれ
 もとちとちの 襪稍書盡不盡法脱ち水とらふ

久敷ぬくも是等せが布易といひしはく得く右の黄
けと粉と刷毛のくわを後尾尻小運後少時多く洗
ぬる也 ○ 狹狎子染尾尾之泥染 粗同く泥
染の強く之を扱て入控狎子の皮 ○ 不極皮云々下
○ 又信子十八日 先下地と藍のくわを長小染布の程と刻
水七升之油入るを并下質と定て染く染くと破る
よ一夜浸し明け乾くまでとて之を干す也此法泥染と極
狎子染の法狎子皮も実も細く刻く一夜水に浸し
能く又く後布裏も染ぬ 泡と云り之は下易と染
一秋染とく明け日後より上糊と云るを乃染と目下干す
目下乾くは梅毎の内より是等ぞ是 ○ 正平染の

力在油を升 ○ 蜜地指十文 ○ 滑之一文 ○ 相懸糸 一匁 ○ 右三味細糸
ししと粉粉一匁布巾粒と在乃油入るを交ぬる也
く一日も干すも乾くは下り 是等強きは葉とげ甘子等
○ 是等く感と云る交細子とげ甘子等も亦此等の様
大分能時多しなり 又時葉乃くは油乃用ふたて見え
たうく是時と能染と云ふ又地指く後油と家小付く
多く染るは細きと云ふは物に油を染し後と云ふ
合之入用は時月日一久敷と云ふは油を用ひ給ふ
小和 夏後小りの付く染と云ふは身繕の事と染す
染をけりぬぬくぬくをけりぬぬくぬくは能押す
捨乃かきと目下は赤い色に染すは黄い色に染すは油強

素深業の本と修補小くせん。主受けり。續とつ
常まきく。之有りたり。干とあり

○ 万寶部事記巻四終

○ 万寶部事記巻五目錄

○ 拾三 去法胤 二一十

○ 拾四 雜門 十一

○ 拾五 雜門 十一

○ 拾六 雜門 十一

○ 拾七 雜門 十一

○ 拾八 雜門 十一

同卷六目錄

○ 拾九 占之氣 三十一

○ 世宗十一年... 氣... 占之氣

○ 占之氣... 氣... 占之氣

○ 占之氣... 氣... 占之氣

○ 拾六 月人之

○ 世門乃下... 月人之

○ 占之氣... 月人之

○ 占之氣... 月人之

○ 拾三 右貴胤

○ 占之氣... 右貴胤

○ 占之氣... 右貴胤

○ 占之氣... 右貴胤

白皮半斤 放水白礬各十兩トシカニ 溶勻任做何物陰乾即干
成白玉矣 巧妙在人若要五彩花紋以○點斑竹法
用礬砂一錢 青塩五分 五倍子三分 右為細末用陳醋調
開隨意點在竹子上用火灸乾即現黑斑其効立○
見點假棕竹亦是用此藥同上 造鑰石法トシカニ 亞鉛三百目
赤銅七百目 鉛三百目

○ 右袖合

白洞一石 右袖合 亞鉛八百目 錫二百目

○ 右袖合

○ 右袖合 亞鉛錫

○ 右袖合

同卷六

○ 拾五 白と氣

○ 日知り者思と云ふも也 船人の云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも
と此の書人云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも
唐書曰五行月令之廣義 武備志 萬寶人全書 園史
五雜俎等と考又古志乃信託と云ふと 是と記也
日取と晴とと知るも 乃の云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも
又日乃の云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも
連日乃の陰乃の復日乃の云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも
曇りくも 乃の云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも 乃の云ふも

○ 皇朝の歴史をこの世の歴史に交りて其の事蹟を記す
○ 皇朝の歴史をこの世の歴史に交りて其の事蹟を記す
○ 皇朝の歴史をこの世の歴史に交りて其の事蹟を記す
○ 皇朝の歴史をこの世の歴史に交りて其の事蹟を記す
○ 皇朝の歴史をこの世の歴史に交りて其の事蹟を記す

○ 卷七 養生記 二下

○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録

○ 拾八 養生記 十下

○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録

目録 卷八 目録

○ 拾九 用業 二下

○ 用業の巻目録
○ 用業の巻目録
○ 用業の巻目録
○ 用業の巻目録
○ 用業の巻目録

○ 拾拾 各海 二下

○ 各海の巻目録
○ 各海の巻目録
○ 各海の巻目録
○ 各海の巻目録
○ 各海の巻目録

○ 拾七 養生記 二下

○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録

○ 拾六 養生記 二下

○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録
○ 養生記の巻目録

りく多々可多々賤りとは体元也 執い必氣血と飲食
と滞りく痛々女元氣なるもの也 ○右飲食は
飲中物心を起る者なりかく己が好む物を飲むを
心もほしむまじり節ありく身と損なはるる
と能くはしむる者生と云物に春生し乃別子元
と知し痛みく飲し病と要と人 ○元百病の
皆生るは飲食は飲介の七情は破らぬ者
氣滞り重りく痛々女心をたろく免者なり
つまじりく身は重なりく心無き事なり
常は疾く強く人への常は楽く一は
ともくは地陰陽乃た常は氣有りる事

乃教し 金欲由更乃和行 遊泳を及んて
人として樂言いそむ者なり 身は銀執りたる
常は樂く公の事なり 是れを及んて人 ○人とは
は常なり 父子兄弟とて 世に計りたる事
是れ人なり 又時の度なり 是れを及んて 世に
ともひなり みるも多る者なり 世に計りたる事
乃出たり 是れを及んて 世に計りたる事
命と樂く みるも多る者なり 世に計りたる事
○右身は 是れを及んて 世に計りたる事
命と樂く みるも多る者なり 世に計りたる事

道行

○家鴨目の白く人成善哉

○鴨くくく木くく鴨細長くとくく喰ふく次

○鶺鴒の月子食ふるく九癰と成漏と次 ○少思之次

○下喰の蛇虫と生れ ○蘇芳子李春せくと春庵

○くく ○菓のけくと同食せよ必き癒と次 ○程と

同食せよ程物とく ○生煎と同食せよ痔と

猪糸と同食せよ蟻生と生れ ○鶺鴒之長く物の

足るの臥白くく人の病のくくつ免白く何れ死

足り成る方々の人成善哉

○維九月下十月子五子進退少く地自子く痔と瘰と

ある胡撒菌カサヒラ本乃子と同食せよ人苦善と同食

毛モウと生と生れ ○死く只の延ぶる人の病

敗更トウと同食せよ人成善と ○山鶴苦善と同食

神カミの肥生と生れ 麩生と同食せよ人成善と

○鶺鴒と同食せよの瘰とく ○荏苒と同食せよ

白糸と振る人見とつれ ○丸の自免と同食せよ

或白鳥の臥是くく人の病の臥白くく人の病

游丸とつ指丸取異るく人の見と喰ふ時と皆人と

敷シと ○狸細糸と服せよ人成善 ○始乃月神と

破ヒ ○字帰可食と

○那ナ鳥梅指授黄と胡黄蓮卷車子及と 苦善

湯子七反池ありて一日水一反りて漿湯子漬日干又
漿湯子浸りて水さらりて九七反を後日干干く生
薑と自然け白粉を湯子一和し少餅と干して搗
きつと包井乃のどよ入風乃のどよる和子と干
漿杯皮ひ或は麹室より入置き干すのどよあま
漬日干干く火干く煎細並一のどよと毒ナ
一南星も同下製法也ぬせき丸の毒字様也
南星ハ大つと毒也 ○白木養木善活独活皮
陳皮防風升麻枳殼枳實のどよ八厘余と用也一
和余ハ悪黄芩中升麻ハ和余と用也一
のどよ乃干乃のどよハ却病ノ善なり ○羌活獨活も

又ありり陳皮も和り性も一葉根ハ何れも葉根と用
也一ハ葉根も和り性も一葉根ハ何れも葉根と用也一
○地黄商陸養木白朮白芷防風之類ハ葉根と用也一
之類ハ反月醜也之性何れも和り酒客のどよ
浸せハ乾燥安一桐乃のどよハ和り酒客のどよ
ハ和り酒客のどよと性も和り酒客のどよ
也一ハ葉根も和り性も一葉根ハ何れも葉根と用也一
つと和り酒客のどよと性も和り酒客のどよ
角子布とせ破の粉と和り酒客のどよと性も和り酒客のどよ
と性も和り酒客のどよと性も和り酒客のどよ
は皮一梅反入和り酒客のどよと性も和り酒客のどよ

よあましそくふる内は全量湯まそく入湯煮す
名也しそくふる二交煮す多敷沸すそくふる
黄いあましそくふるそくふるそくふるそくふる
納豆しそくふるそくふるそくふるそくふる
よ泡あましそくふるそくふるそくふるそくふる
減り法火着と焼糸くあましそくふるそくふる
時氣のあましそくふるそくふるそくふるそくふる
紀元ふ多くあましそくふるそくふるそくふる
種多しそくふるそくふるそくふるそくふる
法流去し多しそくふるそくふるそくふるそくふる
そくふるそくふるそくふるそくふるそくふる

よ理しそくふるそくふるそくふるそくふる
あましそくふるそくふるそくふるそくふる
也乾丹子しそくふるそくふるそくふるそくふる
乳香と入るそくふるそくふるそくふるそくふる
他系を移そくふるそくふるそくふるそくふる
そくふるそくふるそくふるそくふるそくふる
一物と見そくふるそくふるそくふるそくふる
安し煮臨い底しそくふるそくふるそくふるそくふる
んし法先物し薪と多しそくふるそくふるそくふる
既しなごりし薪と少しそくふるそくふるそくふる
新しつ免しそくふるそくふるそくふるそくふる

未熟の胡椒 田中 能千と後乾すと蒸す
蒸すと能千 重文 口とあつた
生すと時
生すと時 梅 皮 肉 子 皮 子 皮 子
蒸す 田中 子 皮 子 皮 子 皮 子
法 生 漬 井 子 皮 子 皮 子 皮 子
子 節 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
と 蒸 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
蒸 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
菜 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
疫 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
疫 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子

婦 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
あ せ 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
か 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
く 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
の 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
蒸 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
ぬ 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
い 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
さ 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
血 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子
春 子 皮 子 皮 子 皮 子 皮 子

萬寶部事記卷八大尾

室永元酉年孟夏吉辰
洛湯六角通書林
茨城多左衛門



湘子



